

# フィールドワークの教育活動への 活用に関する研究

谷沢 明

## はじめに

学生の実体験を重視した教育研究の推進が求められている今日、地域研究を中心とするフィールドワーク（野外調査）の実践及び、その成果の教育活動への還元は、社会的意義が高いものと考えられる。

フィールドワーク論・地域文化論・民俗学を担当する者として、これまで、学外教育としてフィールドワークを授業の一部に取り入れるとともに、学校行事である現代社会学部エンカウンターキャンプや、課外活動である現代社会学会研修旅行に積極的にフィールドワークを取り入れる試みを行い、学生の教育活動の一助としてきた経緯がある。

これらの試みを基礎とし、今後の特色ある教育研究の一層の推進を図ることを目的に、「フィールドワークの教育活動への活用に関する研究」（平成12年度愛知淑徳大学研究助成）を実施した。研究の内容は、①これまで蓄積したフィールドワーク成果のデータ整理、②フィールドワーク成果の授業への活用方法に関する研究（ビデオによる提示方法の研究、写真資料の活用方法の工夫）、③フィールドワーク成果を活用した授業の評価調査、④教育の一環として行うフィールドワークの方法に関する実践的研究の四項目である。

本稿は目的が二つあり、一つは、フィールドワーク論・地域文化論・民俗学を履修する学生（有効回答256）を対象に平成12年7月に行った「フィールドワーク成果を活用した授業の評価調査」を基に、フィールドワーク成果を活用した授業の内容・方法について自己評価点検を含めて考察しようとするものである。もう一つは、エンカウンターキャンプでフィールドワークを体験した学生（有効回答36）を対象に平成12年7月に行った「フィールドワークの教育活動への活用に関する調査」を基に、学校行事におけるフィールドワークの活用の在り方を考察しようとするものである。

## 1. 授業の設計～内容と方法～

フィールドワークの教育活動への活用は、①学生を引率して学外教育としてフィールドワークを体験させる、②各自がフィールドワークを行いその成果をレポートにまとめて提出する、③フィールドワークの成果をビデオや写真資料で提示する授業を実施する、以上の三点から取組みを行ってきた。

学生を引率して学外教育としてフィールドワークを体験させることに関しては、講義科目を履修する学生を対象に、岐阜県高山市の野外博物館飛騨民俗村及び世界遺産に登録された合掌造り集落白川郷をフィールドとして、前期・後期の2回、1泊2日の研修旅行を試みている。また、演習科目においては、年5回のフィールドワーク（平成12年度は、飛騨高山・古川・白川郷、木曾妻籠宿、美濃岩村、郡上八幡、木曾奈良井宿）を実施し、フィールドワーク観察レポートを作成・発表させる形式で授業を進めている。

二番目の各自がフィールドワークを行いその成果をレポートにまとめて提出することに関しては、講義科目のフィールドワーク論・地域文化論・民俗学において、中間レポートを課し、学生自らがフィールドワークを体験するように仕向けている（成績評価において50%を占める）。なお、これらのレポート作成にあたっては、どこにふさわしい調査地があり、どのような見方をして、いかにレポートをまとめたらよいかの参考に資するため、インターネット上にホームページを作成・公開し、これを活用している。ちなみにこのホームページは「町並み紀行」と題するもので、「日本の町並みデータベース作成」（平成10年度愛知淑徳大学研究助成）の成果が取り入れられている。

三番目のフィールドワークの成果をビデオや写真資料で提示する授業を実施することに関しては、学外教育および調査研究において撮影した8ミリビデオや写真を活用するように努めている。授業に用いるビデオは、事象を説明的に提示するだけでなく、どのようなことに目を向けると、何が発見できるかという観点から編集をしており、フィールドワークに参加した学生がビデオに映っている場合も少なくない。

講義科目の授業方法は、自ら作成したテキスト『フィールドワークで探る民俗と地域文化』（平成12年刊行）を用い、毎回8ミリビデオや写真を提示する形で進め、授業終了前の10分間で小テストを行い、その日のまとめとする形式を取っている。以下、フィールドワーク論・地域文化論・民俗学における平成12年度の授業内容とフィールドワーク成果の活用を示すと〈表1〉～〈表3〉のとおりである。

〈表1〉フィールドワーク論（現代社会学部専門基礎科目，1，2年生）

No	講義のテーマ	提示資料
1	フィールドワークとは何か～あるくみるきく～	自作ビデオ「民俗村でフィールドワーク」、写真
2	景観を読む～ムラの風景から人間の営みをみる～	景観の写真を中心に提示
3	風土と地方色を探る～日本の民家から～	民家の写真を中心に提示
4	日本文化を探る～住まいをとおして～	自作ビデオ「町家の美・吉島家」、写真
5	生活文化を探る～居住形式から～	自作ビデオ「民俗村の昔の家」、写真
6	庶民信仰を調べる～石仏・石塔の見方～	自作ビデオ「八事興正寺で石仏調査」、写真
7	庶民信仰を探る～庚申信仰～	庚申塔の写真を中心に提示
8	民俗芸能の見方～田峯田楽～	自作ビデオ「田峯田楽」
9	民俗芸能の見方～奥三河の花祭～	自作ビデオ「奥三河の花祭」
10	街の見方・調べ方～瀬戸内の港町～	自作ビデオ「瀬戸内の港町」
11	街の見方・調べ方～港町・上関～	港町・上関の写真と図版を中心に提示
12	街の見方・調べ方～港町・御手洗～	港町・御手洗の写真と図版を中心に提示
13	街の見方・調べ方～港町・竹原～	港町・竹原の写真と図版を中心に提示
14	宮本常一のフィールドワーク論	紀伊国屋ビデオ「学問と情熱15宮本常一」

〈表2〉地域文化論（現代社会学部専門系列科目，2，3年生）

No	講義のテーマ	提示資料
1	地域文化とは～地域文化の概念～	自作ビデオ「郡上八幡を歩く」、写真
2	地域文化と地域振興～文化財保護行政～	自作ビデオ「世界遺産五箇山」、写真
3	街道の文化～妻籠宿の町並み保存～	自作ビデオ「妻籠宿保存について」
4	街道の文化～奈良井宿の祭礼～	自作ビデオ「奈良井宿鎮神社の祭礼」
5	旅の文化史～お伊勢参り～	自作ビデオ「お伊勢参り」
6	名古屋の文化～城下町名古屋の構造～	城下町名古屋の写真を中心に提示
7	名古屋の文化～熱田神宮の特殊神事～	自作ビデオ「熱田神宮の特殊神事」
8	奥三河の郷土芸能～鳳来寺田楽～	自作ビデオ「鳳来寺田楽」
9	奥三河の郷土芸能～黒沢田楽～	自作ビデオ「黒沢田楽」
10	地域社会の変容～高度経済成長とは～	高度経済成長期の写真を中心に提示
11	地域社会の変容～国土総合開発計画～	提示資料は特になし
12	歴史的文化遺産の継承～歴史的風土の保全～	歴史的風土の写真を中心に提示
13	歴史的文化遺産の継承～まちづくり～	自作ビデオ「飛騨古川を歩く」
14	宮本常一の地域文化論	紀伊国屋ビデオ「学問と情熱15宮本常一」

〈表3〉民俗学（現代社会学部専門系列科目，全学部学芸員課程，2年生）

No	講義のテーマ	提示資料
1	民俗学を学ぶ～目的・領域・方法～	自作ビデオ「飛騨国分寺と寺町」、写真
2	稲作と日本文化～伝統的文化のとらえ方～	自作ビデオ「千葉県香取神宮の御田植祭」、写真
3	農耕儀礼～田遊びを中心に～	自作ビデオ「静岡県藤守八幡の田遊び」、写真
4	年中行事～正月行事を中心に～	自作ビデオ「神奈川県大磯の小正月」、写真
5	年中行事～盆行事を中心に～	自作ビデオ「田峯念仏踊り・大海放下」、写真
6	人生儀礼～人生の折り目にあたって～	人生儀礼の写真を中心に提示
7	暮らしの中の習俗～海に生きる人々①～	自作ビデオ「海の祭り（瀬戸内海）」、写真
8	暮らしの中の習俗～海に生きる人々②～	海村生活の写真を中心に提示
9	暮らしの中の習俗～山に生きる人々①～	自作ビデオ「山の暮らし（飛騨）」、写真
10	暮らしの中の習俗～山に生きる人々②～	山村生活の写真を中心に提示
11	庶民信仰を探る～絵馬に託された願い～	絵馬の写真・実物を中心に提示
12	日本民俗学のあゆみ～柳田国男の役割～	紀伊国屋ビデオ「学問と情熱9柳田国男」
13	日本民俗学のあゆみ～宮本常一のまなざし①～	紀伊国屋ビデオ「学問と情熱15宮本常一」
14	日本民俗学のあゆみ～宮本常一のまなざし②～	NHK人間講座ビデオ「宮本常一が見た日本第12回」

## 2. 平成12年度前期授業の評価調査

### (1) 方法

講義科目のフィールドワーク論・地域文化論・民俗学において、これら3科目を履修する学生335人を対象に、授業の評価調査を実施した（有効回答256、履修者の76.4%が回答）。調査は平成12年7月25日から31日にかけて、質問紙を用いた集合調査の方法で行った。対象者の科目別内訳は〈表4〉のとおりである。

〈表4〉対象者の科目別人数

	フィールドワーク論	地域文化論	民俗学 (火受講)	民俗学 (水受講)	合計
有効回答	86	38	71	61	256
履修者数	103	55	89	88	335

備考：なお、授業欠席の理由で評価が「失格」となった学生は73名（履修者の21.8%）いた。「失格」者内訳は、フィールドワーク論16人（15.5%）、地域文化論16人（29.1%）、民俗学（火受講）15人（16.9%）、民俗学（水受講）26人（29.5%）である。「失格」となった学生は調査不能であり、当該学生の意見は調査結果には反映されていない。

### (2) 結果

それぞれの設問に対する5段階評価調査の結果を示すと以下のとおりである。

#### ①授業内容の理解と関心

設問「授業内容は理解できた」の回答結果は〈表5〉のとおりである。肯定的回答（そう思う・やや思う）の総計は89.5%で、内訳は、フィールドワーク論が80.2%、地域文化論が94.7%、民俗学が93.9%となっている。

〈表5〉設問「授業内容は理解できた」

科目	評価					有効回答	平均値
	そう思う	やや思う	どちらとも言えない	さほど思わない	そう思わない		
総計	68 26.6	161 62.9	25 9.8	2 0.8	0 0.0	256 100.1	4.15
フィールドワーク論	19 22.1	50 58.1	15 17.4	2 2.3	0 0.0	86 99.9	4.00
地域文化論	8 21.1	28 73.7	2 5.3	0 0.0	0 0.0	38 100.1	4.16
民俗学	41 31.1	83 62.9	8 6.1	0 0.0	0 0.0	132 100.1	4.25

設問「授業内容は興味深かった」の回答結果は〈表6〉のとおりである。肯定的回答（そう思う・やや思う）の総計は93.4%で、内訳は、フィールドワーク論が84.9%、地域文化論が97.4%、民俗学が97.7%となっている。

〈表6〉 設問「授業内容は興味深かった」

科目	評価	そう思う	やや思う	どちらとも 言えない	さほど思 わない	そう思わ ない	有効回答	平均値
総計		112 43.8	127 49.6	12 4.7	4 1.6	1 0.4	256 100.1	4.35
フィールドワーク論		27 31.4	46 53.5	9 10.5	3 3.5	1 1.2	86 100.1	4.10
地域文化論		16 42.1	21 55.3	1 2.6	0 0.0	0 0.0	38 100.0	4.39
民俗学		69 52.3	60 45.5	2 1.5	1 0.8	0 0.0	132 100.1	4.49

## ②授業テーマと方法

設問「授業テーマは適切であった」の回答結果は〈表7〉のとおりである。肯定的回答（そう思う・やや思う）の総計は88.6%で、内訳は、フィールドワーク論が79.1%、地域文化論が97.4%、民俗学が92.4%となっている。

〈表7〉 設問「授業テーマは適切であった」

科目	評価	そう思う	やや思う	どちらとも 言えない	さほど思 わない	そう思わ ない	有効回答	平均値
総計		124 48.6	102 40.0	25 9.8	3 1.2	1 0.4	255 100.0	4.35
フィールドワーク論		32 37.2	36 41.9	15 17.4	2 2.3	1 1.2	86 100.0	4.12
地域文化論		21 55.3	16 42.1	1 2.6	0 0.0	0 0.0	38 100.0	4.53
民俗学		71 54.2	50 38.2	9 6.9	1 0.8	0 0.0	131 100.1	4.46

設問「授業の方法は適切であった」の回答結果は〈表8〉のとおりである。肯定的回答（そう思う・やや思う）の総計は85.5%で、内訳は、フィールドワーク論が80.2%、地域文化論が89.5%、民俗学が87.8%となっている。

〈表8〉 設問「授業の方法は適切であった」

科目	評価	そう思う	やや思う	どちらとも 言えない	さほど思 わない	そう思わ ない	有効回答	平均値
総計		119 46.7	99 38.8	33 12.9	3 1.2	1 0.4	255 100.0	4.31
フィールドワーク論		40 46.5	29 33.7	15 17.4	1 1.2	1 1.2	86 100.0	4.23
地域文化論		17 44.7	17 44.7	3 7.9	1 2.6	0 0.0	38 99.9	4.32
民俗学		62 47.3	53 40.5	15 11.5	1 0.8	0 0.0	131 100.1	4.34

## ③テキストの内容

設問「テキストの内容は理解できた」の回答結果は〈表9〉のとおりである。肯定的回答（そう思う・やや思う）の総計は78.0%で、内訳は、フィールドワーク論が74.4%、地域文化論が71.1%、民俗学が82.4%となっている。

〈表9〉「テキストの内容は理解できた」

科目	評価	そう思う	やや思う	どちらとも言えない	さほど思わない	そう思わない	有効回答	平均値
総計		63 24.7	136 53.3	49 19.2	7 2.7	0 0.0	255 99.9	4.00
フィールドワーク論		19 22.1	45 52.3	19 22.1	3 3.5	0 0.0	86 100.0	3.93
地域文化論		12 31.6	15 39.5	10 26.3	1 2.6	0 0.0	38 100.0	4.00
民俗学		32 24.4	76 58.0	20 15.3	3 2.3	0 0.0	131 100.0	4.05

設問「テキストの内容は興味深かった」の回答結果は〈表10〉のとおりである。肯定的回答（そう思う・やや思う）の総計は79.6%で、内訳は、フィールドワーク論が68.6%、地域文化論が92.1%、民俗学が83.2%となっている。

〈表10〉設問「テキストの内容は興味深かった」

科目	評価	そう思う	やや思う	どちらとも言えない	さほど思わない	そう思わない	有効回答	平均値
総計		86 33.7	117 45.9	41 16.1	10 3.9	1 0.4	255 100.0	4.09
フィールドワーク論		21 24.4	38 44.2	21 24.4	5 5.8	1 1.2	86 100.0	3.85
地域文化論		11 28.9	24 63.2	3 7.9	0 0.0	0 0.0	38 100.0	4.21
民俗学		54 41.2	55 42.0	17 13.0	5 3.8	0 0.0	131 100.0	4.21

## ④提示ビデオと写真

設問「提示ビデオは効果があった」の回答結果は〈表11〉のとおりである。肯定的回答（そう思う・やや思う）の総計は94.5%で、内訳は、フィールドワーク論が94.2%、地域文化論が97.4%、民俗学が93.9%となっている。

〈表11〉 設問「提示ビデオは効果があった」

科目	評価	そう思う	やや思う	どちらとも 言えない	さほど思 わない	そう思わ ない	有効回答	平均値
総計		175 68.6	66 25.9	8 3.1	6 2.4	0 0.0	255 100.0	4.61
フィールドワーク論		56 65.1	25 29.1	2 2.3	3 3.5	0 0.0	86 100.0	4.56
地域文化論		29 76.3	8 21.1	1 2.6	0 0.0	0 0.0	38 100.0	4.74
民俗学		90 68.7	33 25.2	5 3.8	3 2.3	0 0.0	131 100.0	4.60

設問「提示写真は効果があった」の回答結果は〈表12〉のとおりである。肯定的回答（そう思う・やや思う）の総計は91.0%で、内訳は、フィールドワーク論が90.7%、地域文化論が89.5%、民俗学が91.7%となっている。

〈表12〉 設問「提示写真は効果があった」

科目	評価	そう思う	やや思う	どちらとも 言えない	さほど思 わない	そう思わ ない	有効回答	平均値
総計		162 63.3	71 27.7	20 7.8	3 1.2	0 0.0	256 100.0	4.53
フィールドワーク論		51 59.3	27 31.4	5 5.8	3 3.5	0 0.0	86 100.0	4.47
地域文化論		29 76.3	5 13.2	4 10.5	0 0.0	0 0.0	38 100.0	4.66
民俗学		82 62.1	39 29.5	11 8.3	0 0.0	0 0.0	132 99.9	4.52

### ⑤ 授業内小テストと中間レポート

設問「授業内小テストは適切であった」の回答結果は〈表13〉のとおりである。肯定的回答（そう思う・やや思う）の総計は59.8%で、内訳は、フィールドワーク論が53.5%、地域文化論が68.4%、民俗学が61.4%となっている。

〈表13〉 設問「授業内小テストは適切であった」

科目	評価	そう思う	やや思う	どちらとも 言えない	さほど思 わない	そう思わ ない	有効回答	平均値
総計		59 23.0	94 36.7	88 34.4	13 5.1	2 0.8	256 100.0	3.76
フィールドワーク論		17 19.8	29 33.7	31 36.0	8 9.3	1 1.2	86 100.0	3.62
地域文化論		14 36.8	12 31.6	12 31.6	0 0.0	0 0.0	38 100.0	4.05
民俗学		28 21.2	53 40.2	45 34.1	5 3.8	1 0.8	132 100.1	3.77

設問「中間レポートは興味深く取り組めた」の回答結果は〈表14〉のとおりである。肯定的回答（そう思う・やや思う）の総計は80.9%で、内訳は、フィールドワーク論が82.6%、地域文化論が86.8%、民俗学が78.0%となっている。

〈表14〉 設問「中間レポートは興味深く取り組めた」

科目	評価	そう思う	やや思う	どちらとも言えない	さほど思わない	そう思わない	有効回答	平均値
総計		137 53.5	70 27.3	45 17.6	3 1.2	1 0.4	256 100.0	4.32
フィールドワーク論		51 59.3	20 23.3	13 15.1	2 2.3	0 0.0	86 100.0	4.40
地域文化論		24 63.2	9 23.7	5 13.2	0 0.0	0 0.0	38 100.1	4.50
民俗学		62 47.0	41 31.1	27 20.5	1 0.8	1 0.8	132 100.2	4.23

### ⑥フィールドワーク成果の活用

設問「フィールドワークの成果が活用された授業であった」の回答結果は〈表15〉のとおりである。肯定的回答（そう思う・やや思う）の総計は71.9%で、内訳は、フィールドワーク論が80.2%、地域文化論が76.3%、民俗学が65.2%となっている。

〈表15〉 設問「フィールドワークの成果が活用された授業であった」

科目	評価	そう思う	やや思う	どちらとも言えない	さほど思わない	そう思わない	有効回答	平均値
総計		85 33.2	99 38.7	60 23.4	11 4.3	1 0.4	256 100.0	4.00
フィールドワーク論		35 40.7	34 39.5	13 15.1	3 3.5	1 1.2	86 100.0	4.15
地域文化論		17 44.7	12 31.6	9 23.7	0 0.0	0 0.0	38 100.0	4.21
民俗学		33 25.0	53 40.2	38 28.8	8 6.1	0 0.0	132 100.1	3.84

### (3) 興味深かった授業

興味深かった授業を優先順位をつけて3つほど選んでもらった結果を度数で示すと、〈表16〉～〈表19〉のとおりである。フィールドワーク論では「フィールドワークとは何か～あるくみるきく～」「宮本常一のフィールドワーク論」「民俗芸能の見方～田峯田楽～」が、地域文化論では「旅の文化史～お伊勢参り～」「宮本常一の地域文化論」が、民俗学では「庶民信仰を探る～絵馬に託された願い～」「日本民俗学のあゆみ～宮本常一のまなごし～」が上位に挙げられている。



〈表16〉興味深かった授業・フィールドワーク論

No	講義のテーマ	最も興味深かった授業	2番目に興味深かった授業	3番目に興味深かった授業
1	フィールドワークとは何か～あるくみるきく～	26	6	5
2	景観を読む～ムラの風景から人間の営みをみる～	7	7	5
3	風土と地方色を探る～日本の民家から～	1	7	6
4	日本文化を探る～住まいをとおして～	9	12	6
5	生活文化を探る～居住形式から～	5	16	5
6	庶民信仰を調べる～石仏・石塔の見方～	4	4	5
7	庶民信仰を探る～庚申信仰～	2	3	4
8	民俗芸能の見方～田峯田楽～	12	6	10
9	民俗芸能の見方～奥三河の花祭～	3	7	4
10	街の見方・調べ方～瀬戸内の港町～	0	1	7
11	街の見方・調べ方～港町・上関～	0	2	0
12	街の見方・調べ方～港町・御手洗～	0	3	4
13	街の見方・調べ方～港町・竹原～	2	3	8
14	宮本常一のフィールドワーク論	15	9	16

〈表17〉興味深かった授業・地域文化論

No	講義のテーマ	最も興味深かった授業	2番目に興味深かった授業	3番目に興味深かった授業
1	地域文化とは～地域文化の概念～	0	0	2
2	地域文化と地域振興～文化財保護行政～	1	2	2
3	街道の文化～妻籠宿の町並み保存～	5	1	3
4	街道の文化～奈良井宿の祭礼～	3	2	2
5	旅の文化史～お伊勢参り～	10	8	4
6	名古屋の文化～城下町名古屋の構造～	2	4	1
7	名古屋の文化～熱田神宮の特殊神事～	3	1	1
8	奥三河の郷土芸能～鳳来寺田楽～	0	2	2
9	奥三河の郷土芸能～黒沢田楽～	0	2	1
10	地域社会の変容～高度経済成長とは～	3	5	5
11	地域社会の変容～国土総合開発計画～	1	2	2
12	歴史的文化遺産の継承～歴史的風土の保全～	0	1	1
13	歴史的文化遺産の継承～まちづくり～	0	2	5
14	宮本常一の地域文化論	10	6	6

〈表18〉 興味深かった授業・民俗学（火）

No	講義のテーマ	最も興味深かった授業	2番目に興味深かった授業	3番目に興味深かった授業
1	民俗学を学ぶ～目的・領域・方法～	2	2	4
2	稲作と日本文化～伝統的文化のとりえ方～	1	1	4
3	農耕儀礼～田遊びを中心に～	4	7	5
4	年中行事～正月行事を中心に～	7	7	16
5	年中行事～盆行事を中心に～	4	9	1
6	人生儀礼～人生の折り目にあたって～	8	4	7
7	暮らしの中の習俗～海に生きる人々①～	5	1	2
8	暮らしの中の習俗～海に生きる人々②～	2	2	3
9	暮らしの中の習俗～山に生きる人々①～	0	1	3
10	暮らしの中の習俗～山に生きる人々②～	0	2	2
11	庶民信仰を探る～絵馬に託された願い～	17	15	11
12	日本民俗学のあゆみ～柳田国男の役割～	1	6	2
13	日本民俗学のあゆみ～宮本常一のまなざし①～	7	7	4
14	日本民俗学のあゆみ～宮本常一のまなざし②～	13	7	7

〈表19〉 興味深かった授業・民俗学（水）

No	講義のテーマ	最も興味深かった授業	2番目に興味深かった授業	3番目に興味深かった授業
1	民俗学を学ぶ～目的・領域・方法～	1	3	2
2	稲作と日本文化～伝統的文化のとりえ方～	2	4	5
3	農耕儀礼～田遊びを中心に～	5	2	6
4	年中行事～正月行事を中心に～	2	12	3
5	年中行事～盆行事を中心に～	1	5	6
6	人生儀礼～人生の折り目にあたって～	6	10	10
7	暮らしの中の習俗～海に生きる人々①～	4	4	8
8	暮らしの中の習俗～海に生きる人々②～	2	1	2
9	暮らしの中の習俗～山に生きる人々①～	1	1	3
10	庶民信仰を探る～絵馬に託された願い～	25	13	4
11	日本民俗学のあゆみ～柳田国男の役割～	2	3	2
12	日本民俗学のあゆみ～宮本常一のまなざし～	10	3	10

### 3. フィールドワーク成果を活用した授業

前述の「平成12年度前期授業の評価調査」において、フィールドワーク成果の授業への活用について、どこが興味深く、参考になったかを自由記述意見として求めた。その要点を簡略に整理すると、以下のとおりである。

#### (1) フィールドワーク成果を活用した授業方法に対する自由記述意見から

##### ①フィールドワーク論

- ・いろいろな地域の具体的な例をとって進めていく授業だったので、わかりやすかった。
- ・話や絵だけでは伝わりにくい雰囲気を知ることができたのはフィールドワークの成果だと思いました。
- ・普段、目を向けられないような点にも目を向けて、いろいろなことに興味を持ち、その土地に根づいた文化を大切にしようという姿勢が感じられた授業であった。
- ・現地調査を行ったことによって、映像が手に入り、現地に行っていない我々にも、明確な説明がなされた点がよかった。現地に行ったということで生の感想が得られる。
- ・「あるく」「みる」「きく」という簡単なようで難しいことが、反映されている授業であったと思う。

##### ②地域文化論

- ・ビデオを使った授業は興味深く、参考になり、地域文化と接して行く何らかの方向性を位置付けてくれた。
- ・地域文化論は、他の授業に比べて、視聴覚教材が多くて、私達生徒にとっては、やはり耳だけで聞くよりも分かりやすい。先生は実際にその土地に行っているのだから、その土地の様子や人々の様子等、生の体験談が聞けるので、とても興味深い授業だった。
- ・フィールドワークを行って地元へ行って記録してきた情報を見ると、地域の人々のがんばりとか生き生きとした感じが伝わってきて印象に残った。
- ・ただ一般的な話を聞くだけではなく、同時にビデオを見ることによって話の内容がより鮮明になって印象深いものになる。また、実際の体験記というのは聞き手にとって非常に興味深いものであると思う。
- ・実際に行って見てきたもの、聞いてきたことを見たり、聞いたりできて、テキストだけを使用している授業と違って、血の通ったというか実感が持ちやすい授業で興味深かった。
- ・先生がとってきたビデオによって、視覚、音的に入ってくる。単に資料等から調べただけの事しか書かれていないテキストのみで授業を行うよりは、先生の実体験や、見てきた事を教わるほうがより現実味を感じられるし、興味深く授業を受けられたと思う。

##### ③民俗学

- ・授業であつまっている内容は、一般に現実感がもちにくい。フィールドワークの成果を授業に活用することで、現実がどのようなものかがわかって参考になった。
- ・授業にフィールドワークの成果を取り入れるということは、聞き手に擬似的なフィールド

ワークをさせていることと同じことではないかという気がしてならない。フィールドワークの成果を取り入れた授業は生徒が新たな発見をする際の参考になるし、また、同時に興味を引き出す力をもっている。

・先生のいろんな所へ行かれた時のビデオは、教科書に書かれたことをリアルに示してくれていて毎回興味深かった。写真も大変参考になった。ただ黒板だけを写す授業と違って分かりやすいし、後々まで印象に残る授業内容だった。

・フィールドワークによって得られた数々の写真やVTRや実際の話にふれる（吸収する）ことで、ただ書かれたテキストを学ぶだけでは得られないようなことが実感できる。普通の（市販）資料を使ったのではわからないような所が良かったです。

・文献だけでは決して入手できない知識やその時々の方々の現場の状況が見たり聞いたりして分かるということは素晴らしいことなのだと感じた。特に授業内で見た多くのビデオでは、その地域の人たちの活気ある様子が見てとれたので、とても参考になった。

・先生が本当に色々な所へ出かけているということ。そしてお祭りや行事に参加し、その実際の映像を見ることができて参考になった。

・本当に先生はいろんな所に行く人だと思った。行く先々の話はなかなか面白い。ひよっとしたら、そういうことこそ、フィールドワーク成果の重要なポイントなのかもしれない。

・先生は実際に歩いて、見て、聞いてきたものを私達に教えてくれるので、新しい授業の形で、興味深かった。やはり、実体験をしている人の話は面白いし、興味深いと思った。

・先生が実際にフィールドワークをしたものだから、写真や、ビデオ、その人々と話したりした会話の内容、先生の意見、感想が細かく、そして詳しく知ることができる。生の参考資料に次々と触れることができることは、私たち生徒にとってうれしい学ぶ価値のある講義であったと思いました。

・授業で使った教科書はすべてフィールドワークしたものだったので、おもしろみがありよかった。また、教科書にそって先生のお話を聞くことにより、そこに住んでいる人の様子がよく分かった。また、ビデオや写真を見ることによって書いた物からだけ学ぶのではなく目で見て学べるのでよかった。

・テキストの説明に、具体例が上げられ、わかりやすかった。言葉で説明されるよりも実際見た方がはるかに理解しやすかった。単に字面を追うだけの講義よりも、学生の興味を引きやすく、理解もしやすい良いものだと思う。

・たくさん写真やビデオを見たこと、そして先生が私達のまわりを歩いて色々な質問をあげ、私達がそれについて考え、答えるというやり方、どれも一つ一つ新鮮な気持ちで授業に入り込めたと思う。

・この授業のやり方は、他にはないやり方でおもしろかった。既製の資料ではなく、生のままを見ているようで現実味があって参考となった。なにより、先生が一番楽しんでフィールドワークをやっているのがポイントであると思う。

## (2) 写真・映像の活用についての自由記述意見から

### ①フィールドワーク論

- ・フィールドワークはやはり現地に行って調べるのが一番いいけれど、授業だとそうもいかないもので、ビデオや、写真は役に立つと思う。
- ・「あるく、みる、きく」のうち授業内でできるものは「見る」だけだけれども、写真や映像を「見る」ことによってフィールドワークに少し近づいていると思えた。
- ・実際に「あるく・みる・きく」ということをするフィールドワークに比べると、情報量の面でやや劣るけど、自分がフィールドワークをする時、どういう点に気をつければ良いのか、というフィールドワークのやり方を学んだような気がする。
- ・実際にフィールドワークをしている内容のビデオや、撮ってきた写真には説得力があり、興味深かった。
- ・実際に地元の人に話しを聞いている場面は「このようにして聞いて、メモをとるのか」と、フィールドワークをするにあたって非常に参考になった。
- ・祭り、踊り、神事なども、映像だけでなく、その場の小話のようなものが聞けて、現代も行われている伝統行事の人々の取組み方、どのような気持ちで参加しているのかという生の声が少しわかった気がした。

### ②地域文化論

- ・ビデオの映像は時には文字より明確に表現され、後々まで覚えていられる。
- ・ビデオをつかった授業では、ふだん見られないところもビデオで簡単に見ることが出来て良い授業でした。
- ・私は正直、地域文化に関する知見はほとんど持っていなかったし、あまり関心もなかった。しかし、地域文化の意味、歴史、活動、実際の映像をビデオ等で見ることによって、私は地域文化の重要性を考えるようになった。
- ・フィールドワークのビデオなどを見ても、教科書にはないことが山ほどあり、興味深かった。より実践的で参考になった。やはり実際に歩いてみてその地域にふれることが地域文化を勉強する上で大切だと思った。
- ・ビデオや写真など、ちょっと見せるのではなく、じっくりたくさん見せていただけたのがよかったです。

### ③民俗学

- ・言葉や文章だけでは伝えにくいものがあり、それを伝えるために資料として絵（写真）や実際に撮ってきたビデオなどを見ることで、普通は伝わりにくい雰囲気や感覚といったものを少しでも伝えられるものだと思います。
- ・VTRなどで土地の人々のざわめく声が聞こえると、それだけで雰囲気が伝わり、これは本などを読んだだけでわかるようなことではないと思った。
- ・人々の表情や声まで知ることができるのでその時々、人々はどう思っているのかが伝わってくるようで、興味深かった。

・色々な行事のビデオや絵・写真などが、説明だけよりも視覚的に体験することで、より深く印象に残って良かったと思います。その行事そのものだけでなく、その日までの人々の様子や準備などもわかるのもっと面白そうだと思います。

・各地の祭りや神事をビデオで見ることが出来たのは、とても参考になった。言葉で説明するだけでは分かりにくい歌や、身振りや、場の様子が、ビデオを見ることで手に取る様に感じられた。また、それらの行事が、民衆同士の結びつきを強める為にも役立っていることも、ビデオを見ていて気付いた。

・普段、私たちが普通に過ごしていて、出会うことが出来ないような行事のビデオを見せていただくことで、テキストや本に書いてあること以上に、理解が深まる点が素晴らしいと思いました。

・毎回、ビデオや写真が使われているので、本当に行われていること、本当にあることだというのが実感できた。

・ビデオにしる写真にしる、古くないところがいいと思いました。“民俗学”と聞いただけで昔のことだと思いがちですが、ビデオや写真を見ると、現在でも行なわれていることがよくわかりました。

・儀礼などを話して聞くだけでなく、ビデオで見ることによって、実際に今もあることなのだ、というのが実感できました。

・ビデオや写真を見ることによって、どこに着目すればよいのか、どんな人にどのような話を聞けばよいのかが分かってきたような気がします。

・よく、テレビなどを見ると、“世界のすごい人”などを特集しているが、それが、本当かどうかを考えると、“やらせ”かもしれない……と半分思ってしまう。しかし、授業で活用されていたフィールドワークの成果は“うそ”がないように感じられた。

#### 4. フィールドワークの学校行事への活用

フィールドワークの学校行事への活用について、平成12年度現代社会学部エンカウンターキャンプでフィールドワークを体験した学生（有効回答36）を対象に「フィールドワークの教育活動への活用に関する調査」を実施した。調査は平成12年7月17日に質問紙を用いた集合調査の方法で行った。小規模な調査ではあるが、その結果を〈表20〉に記したい。

〈表20〉「フィールドワークの教育活動への活用に関する調査」5段階評価結果

設問	評価	そう思う	やや思う	どちらとも言えない	さほど思わない	そう思わない	有効回答	平均値
設問1フィールドワークは興味深かった		14 38.9	19 52.8	2 5.6	0 0.0	1 2.8	36 100.1	4.25
設問2フィールドワークに意欲的に取り組めた		10 27.8	16 44.4	9 25.0	1 2.8	0 0.0	36 100.0	3.97
設問3フィールドワークは楽しかった		19 52.8	13 36.1	3 8.3	0 0.0	1 2.8	36 100.0	4.36
設問4フィールドワークは課題発見に役立った		11 30.6	12 33.3	12 33.3	1 2.8	0 0.0	36 100.0	3.92
設問5フィールドワークは自己啓発に役立った		5 13.9	12 33.3	10 27.8	8 22.2	1 2.8	36 100.0	3.33
設問6フィールドワークは地域文化の理解に役立った		13 36.1	19 52.8	3 8.3	1 2.8	0 0.0	36 100.0	4.22
設問7今後、授業にフィールドワークを取り入れてほしい		10 27.8	12 33.3	10 27.8	4 11.1	0 0.0	36 100.0	3.78
設問8フィールドワークは教育活動の一環として有益		16 44.4	14 38.9	4 11.1	2 5.6	0 0.0	36 100.0	4.22

次に「フィールドワークの教育活動への活用に関する調査」の自由記述意見を整理してみたい。まずは、設問1「フィールドワークは興味深かった」の理由を要約すると、次のとおりである。

- ・今までとは違った見方で高山の街を見ることができたから。
- ・友達の意見を聞くことができた。
- ・身近なものに目を向けるとたくさんのエピソードが隠されていることを知った。
- ・昔の建物や雰囲気を味わえた。
- ・違った地域の文化を発見することができた。
- ・フィールドワークは新しい土地の見方だと思う。
- ・自分自身でたくさんの疑問点を持つことが大切。
- ・深く知りたいと思う人にとってフィールドワークは興味深い。

設問2「フィールドワークに意欲的に取り組めた」の理由を要約すると、次のとおりである。

- ・意欲的に取り組み、時間的に短く感じた。
- ・少しなにかが気になると自然にお店のおばさんに聞いてしまう。
- ・先輩のひとことで、興味がもてた。
- ・初めは義務感からであったが、夜の報告の時に意欲がわいてきた。

設問3「フィールドワークは楽しかった」の理由を要約すると、次のとおりである。

- ・いろいろな人と出会えたことや、友達になれたことがうれしかった。
- ・高山は、興味深いところがいっぱいあったし、おいしい食べ物もいっぱいあった。
- ・自分の興味のある所をじっくり見る事ができて楽しかった。
- ・いろいろな建物を見たりおいしい物を食べたり、地元の話の話を聞くことができた。
- ・新しい友人と楽しく過ごせ、仲良くなれた。

- ・仲間ができ、その仲間と一緒に学ぶ事ができた。
  - ・時間が長く、自由だったので楽しかった。
  - ・発見することやフィールドワークという観点で見ることの楽しさを知った。
  - ・いろいろな物を発見できた。
  - ・知らない土地を、新しい友達と、町の雰囲気についてなど語りながら歩けるから。
- 設問4「フィールドワークは課題発見に役立った」の理由を要約すると、次のとおりである。
- ・素直な気持ちから自然に、自分の中に考え（課題）が浮かぶ。
  - ・課題発見には役立ったけど同じ題材にみんなのレポートが集中してしまったと思う。

設問6「フィールドワークは地域文化の理解に役立った」の理由を要約すると、次のとおりである。

- ・昔の建物を見ることができてよかった。
- ・高山祭について知ることができた。
- ・とにかく実際に目でみることは重要。
- ・文化などは特に肌で空気を感じることで理解できたりする。
- ・最近のものや伝統的なものの違いがわかるようになったと思う。
- ・ふだんあまり話すことのないお年寄と話せて勉強になった。
- ・その町の特産品を食べ、町並を感じて歩く、地元の人との交流は役に立つ。
- ・伝統的な古い家屋は高山らしさを感じることができ大変よかった。
- ・こういう機会がないとその土地の特色、文化を理解する機会というのはないだろう。
- ・いろいろ昔の知識を学ぶことができたから。

設問7「今後、授業にフィールドワークを取り入れてほしい」の理由を要約すると、次のとおりである。

- ・机上の勉強以外に実際の状況、まち全体を自分の目で確かめて、聞くことを他の授業でも取り入れてほしい。
- ・じかにその環境の空気に触れ、体感できるところが、一番良い。
- ・フィールドワークは例えば、放送、新聞などのメディア活動においても原点である。報道の原点、情報収集の方法の原点を学び、知ることは重要である。
- ・机上で、文章を読んでいるだけでは、新しい発見もうみ出されてこないと思うので、自分の目で確かめて考えるという点で、授業に取り入れてほしい。
- ・体験することで学ぶ、自分の目で見、手で触れる。

設問8「フィールドワークは教育活動の一環として有益」の理由を要約すると、次のとおりである。

- ・物事を丁寧に見る力、積極的にまちの人とふれあい、話を聞くことは大切。
- ・福祉、教育、文化などを学ぶ際にも、フィールドワークを生かしていくことが大切。
- ・自分の足で歩いていろいろなことを発見して、人に尋ねるといった行為は社会に出て行動するとき役に立つ。



- ・その土地へ行って風景を見、その土地に住んでいる方々からお話を聞くことは大切。
- ・地域の人々とふれあうことができ、新しいことを知り、楽しく学べるため。
- ・実際に、その場へ行き、見たもの、触れたものについてじっくり考えるというのは、教室で授業を受けるよりも印象に残る。
- ・体を動かしたり自分の興味をもった事を課題にできるため。
- ・メディアプロデュースなどにおいても基本はフィールドワークによる発見であると思う。
- ・実際に自分の目で見たり体験したりしないとわからないことはたくさんある。
- ・昔をふりかえるのに、有効な手段だと思う。
- ・受身的でない行動力が広がると思う。
- ・何か自分で疑問点を持つ事、そのフィールドワークはいい勉強方法だと思った。
- ・体験することで学ぶ。自分の目で見、手で触れる。

## 5. まとめ

最後に、本調査研究のまとめを行い、今後の課題についていくつか指摘したい。

フィールドワーク成果を活用した授業（「平成12年度前期授業の評価調査」）に対する5段階評価調査結果の平均値は、「提示ビデオは効果があった（4.61）」「提示写真は効果があった（4.53）」が高い数値を示し、映像提示が効果的であることが明らかになる。また、「授業テーマは適切であった（4.35）」「授業の方法は適切であった（4.31）」「中間レポートは興味深く取り組めた（4.32）」と、授業のテーマや方法、そしてフィールドワークを課した中間レポート課題に対しても肯定的な評価が与えられている。ところが「授業内小テストは適切であった（3.76）」については平均値を上回るものの、全体をとおして最も低い数値となっており、学生の本音が表れている。なお「授業内容は理解できた（4.15）」「テキストの内容は興味深かった（4.09）」「テキストの内容は理解できた（4.00）」と、授業やテキスト内容の理解についても肯定的な評価が与えられているが、授業欠席の理由で評価が「失格」となった学生（履修者の21.8%）は調査不能であり、当該学生の意見は調査結果には反映されていないことを踏まえてこの調査結果を見るべきであろう。本調査の趣旨である「フィールドワークの成果が活用された授業であった（4.00）」についても、総じて肯定的な評価が与えられていると判断してさしつかえないであろう。

次に、フィールドワーク成果を活用した授業方法（「平成12年度前期授業の評価調査」）に対する自由記述意見の要点をまとめると、以下のとおりである。フィールドワーク論においては「いろいろな地域の具体的な例をとって進めていく授業」「現地に行ったということで生の感想が得られる」「普段、目を向けられないような点にも目を向ける授業」「その土地に根づいた文化を大切にしようという姿勢の授業」などの意見が挙げられた。

また地域文化論では「地域文化と接していく何らかの方向性を与えた授業」「その土地の様子や人々の様子等、生の体験談が聞ける」「地域の人々のがんばりと生き生きした感じが伝わる」「実際の体験記というのは聞き手にとって興味深い」「血の通った実感が持ちやすい授

業]「実体験や、見てきた事を教わる方がより現実味が感じられる」などの意見がみられた。

さらに民俗学においては「聞き手に擬似的なフィールドワークをさせている授業」「フィールドワークの成果を取り入れた授業は生徒が新たな発見をする際の参考になる」「ただ黒板だけを写す授業と違って分かりやすい授業内容」「ただ書かれたテキストを学ぶだけでは得られないようなことが実感できる」「普通の(市販)資料を使ったのではわからないような所が良かった」「文献だけでは入手できない知識やその時々の方々の現場の状況が分かる」「その地域の人たちの活気ある様子が見てとれた」「祭りや行事に参加しその実際の映像を見ることができて参考になった」「行く先々の話はなかなか面白い。それが、フィールドワーク成果の重要なポイント」「歩いて、見て、聞いてきたものを私達に教えてくれる新しい授業の形」「生の参考資料に次々と触れることができることは、私たち生徒にとってうれしい授業」「そこに住んでいる人の様子がよく分かった」「単に字面を追うだけの講義よりも、学生の興味を引きやすく、理解もしやすい」「たくさんの写真やビデオを見て、色々な質問に答えるというやり方は新鮮」「既製の資料ではなく、生のままを見ているようで現実味がある」「何より先生が一番楽しんでフィールドワークをやっているのがポイント」などの意見が寄せられた。

フィールドワークの成果を活用した授業は、具体的には、写真やビデオの映像資料提示という形で進めていった。3番目に、写真やビデオの活用についての自由記述意見の要点をまとめると、以下のとおりである。フィールドワーク論においては「実際にフィールドワークをしている内容のビデオや、撮ってきた写真には説得力がある」「自分がフィールドワークをする時、どういう点に気をつければ良いのかを学んだ」「地元の人に話を聞いている場面は“このように聞いてメモをとるのか”と参考になった」「祭り、踊り、神事などの伝統行事へどのような気持ちで参加しているのかという生の声が伝わった」などの意見が挙げられた。

また地域文化論では「ふだん見られないところもビデオで簡単に見ることができる授業」「地域文化の歴史、活動、実際の映像を見ることによって地域文化の重要性を考えるようになった」「教科書にはないことが山ほどあり、より実践的で参考になった」「ビデオや写真などちょっと見せるのではなく、じっくり見せていただいたのがよかった」などの意見がみられた。

さらに民俗学においては「言葉や文章だけでは伝えにくい雰囲気や感覚といったものを伝えられる」「土地の人々のざわめく声が聞こえると雰囲気が伝わる」「人々の表情や声まで知ることができるので人々はどう思っているのかが伝わる」「行事そのものだけでなく、その日までの準備などもわかるともっと面白い」「言葉だけでは分かりにくい歌や、身振りや、場の様子が手に取る様に感じられた」「本当に行われていること、現在でも行なわれていることがよくわかった」「どこに着目すればよいのか、どんな人にどのような話を聞けばよいのか分かった」「授業で活用されていたフィールドワークの成果は“うそ”がないように感じられた」などの意見が寄せられた。

4番目に、平成12年度エンカウンターキャンプにおいてフィールドワークを体験した学生に対して、フィールドワークは教育活動の一環として有益であるか否かを尋ね(「フィールド

ワークの教育活動への活用に関する調査))、その理由を記した自由記述意見の要点をまとめると、「物事を丁寧に見る力、積極的にまちの人とふれあい、話を聞くことは大切」「福祉、教育、文化などを学ぶ際にも、フィールドワークを生かしていくことが大切」「自分の足で歩いていろいろなことを発見して、人に尋ねるという行為は社会に出て行動するとき役に立つ」「地域の人々とふれあうことができ、新しいことを知り、楽しく学べる」「実際に、その場へ行き、見たもの、触れたものについてじっくり考えるというのは、教室で授業を受けるよりも印象に残る」「何か自分で疑問点を持つ事、そのフィールドワークはいい勉強方法」などが挙げられている。

最後に、フィールドワークの教育活動への活用は、以上の調査結果から、学生からの期待は高く、その教育効果も少なからずあることが明らかになる。すなわち実体験を重視した教育研究は、今後ますます推進すべきことであると言えよう。しかしながら、地域研究等を中心とするフィールドワーク（野外調査）を教育の場で実践していく体制は十分に整えられているとは言いがたい。一つは、演習科目を除いた多人数を対象とする講義科目におけるフィールドワークの実施には困難がともない、すべての学生にその機会を等しく提供することができない現況が指摘できる。また、フィールドワークを研究活動の一つとして行う場合はその位置付けが確立しているが、これを教育の一つとして実践していく場合、整備を要する部分が残されている。さらに、フィールドワークの成果を教育活動に還元していく方法についても未確立な部分が多く、これから構築していくべき部分が少なくない点を挙げるべきであろう。

**付記** 調査研究のデータ整理にあたり、愛知淑徳大学学生の大池玲子（3年生）・猪上友子（1年生）さんの協力を得た。記して感謝申し上げたい。

**参考資料1：「フィールドワーク成果を活用した授業の評価調査」質問項目**

**設問Ⅰ**．授業を振り返って、あてはまる番号に○をつけてください。

	5： そう思う	4： やや思う	3： どちらでもない	2： さほど思わない	1： そう思わない
1. 授業内容は理解できた .....	5	4	3	2	1
2. 授業内容は興味深かった .....	5	4	3	2	1
3. 授業テーマは適切であった .....	5	4	3	2	1
4. 授業の方法は適切であった .....	5	4	3	2	1
5. テキストの内容は理解できた .....	5	4	3	2	1
6. テキストの内容は興味深かった .....	5	4	3	2	1
7. 提示ビデオは効果があった .....	5	4	3	2	1
8. 提示写真は効果があった .....	5	4	3	2	1
9. 授業内小テストは適切であった .....	5	4	3	2	1
10. 中間レポートは興味深く取り組めた .....	5	4	3	2	1
11. フィールドワークの成果が活用された授業であった .....	5	4	3	2	1

**設問Ⅱ**．授業においてもっとも印象的な話を一つ記入してください。

**設問Ⅲ**．興味深かった授業を3つ選んで、どこが興味深く、参考になったかを具体的に述べてください。（興味深い順に①②③に記入）

**設問Ⅳ**．フィールドワーク成果の授業への活用について、どこが興味深く、参考になったかを具体的に述べてください。

**参考資料2：「フィールドワークの教育活動への活用に関する調査」質問項目**

**設問1**．エンカウンターキャンプで実施したフィールドワークを振り返って、あてはまる番号に○をつけてください。

	5： そう思う	4： やや思う	3： どちらでもない	2： さほど思わない	1： そう思わない
1. フィールドワークは興味深かった .....	5	4	3	2	1
2. フィールドワークに意欲的に取り組めた .....	5	4	3	2	1
3. フィールドワークは楽しかった .....	5	4	3	2	1
4. フィールドワークは課題発見に役立った .....	5	4	3	2	1
5. フィールドワークは自己啓発に役立った .....	5	4	3	2	1
6. フィールドワークは地域文化の理解に役立った .....	5	4	3	2	1
7. 今後、授業にフィールドワークを取り入れてほしい .....	5	4	3	2	1
8. フィールドワークは教育活動の一環として有益 .....	5	4	3	2	1

**設問2**．設問1に関して特に思うことを2つ選んで、その理由を記述してください。